



今富っ子(いまとみっこ)

小浜市立今富小学校 令和8年2月25日<NO.10>

今富小学校

検索



心が震えたオリンピック

校長 古跡 修聡

気がつけば、2月も終わりを迎え、今年度終了で残り18日(6年生は11日)となりました。いよいよ、今年度の締めくくりの時期です。各学年では、4月に始まる新年度に向け、今年度のまとめと、次年度に向けた準備を進めています。今富小学校の教育活動全体としても、子どもたちや保護者の皆様からいただきましたご評価を元に、今年度の課題を明確にし、次年度の目指す子どもたちの姿を描きながら、教育活動のデザインを作成しているところです。残りわずかな令和7年度の日々を大切にしながら、来るべき令和8年に向け進んでいきたいと思えます。

さて、先日閉幕しました「ミラノ・コルティナオリンピック」数々の感動の場面が、皆さんも脳裏に浮かぶのではないのでしょうか。最も印象的だった1つが、フィギュアスケートペアに出場した「りくりゅうペア」の大逆転金メダルです。ショートプログラムでのまさかの失敗。失意の中で迎えたフリーでの圧巻の演技には、感動で涙が止まりませんでした。高梨沙羅選手のスキージャンプ雪辱の銅メダル。平野歩夢選手の大けがの中で見せた信じられないハーフパイプでのパフォーマンス。戸塚優斗選手の2大会連続で挫折を味わった先につかんだハーフパイプの金メダル。現役最後のオリンピックでやりきるかっこよさを体現したノルディック複合の渡部暁斗選手。そして、スキースロープスタイルの近藤心音選手。2大会連続の公式練習でのケガにより、スタート地点に立てなかった悔しさ。ここでは書き切れない数の心震える場面が、今も次々に思い出されます。競技に真摯に向き合う姿勢、恐怖に立ち向かう勇氣、挫折をバネに成長する姿、仲間との心からの信頼、自分とは決して同じレベルで考えられるものではありませんが、1人の人として、選手たちの生き様から「命を輝かせて生きる」ことの意味を考えさせられたオリンピックでした。

ところで、戦い終わった選手たちの姿やインタビューを目にする中で、年齢も性別も、競技・種目も、背負ってきた背景も、それぞれ異なる選手たちですが、どの選手からも共通して伝わってくる思いがありました。1つ目は「支えてくださった人への感謝」です。家族、友人、スタッフ、地元の人々、ともに切磋琢磨してきた仲間たち。今日の日があるのは、この結果を得られたのは、たくさんの方々の支えがあったおかげであるという「感謝」の言葉でした。2つ目は「競技を終えての満足」です。結果が出た人、そうでなかった人、中には近藤選手のようにスタート地点にすら立てなかった人もいます。もちろん、結果については、悔しさや残念さを言葉にする選手はいましたが、自分のやってきたこと、全力を尽くせたことに対しては、どの選手も晴れやかな顔で「満足」の気持ちを表現していました。最後に、競技を終えた直後の選手たちの「涙」です。うれし涙、悔し涙、感謝の涙、満足の涙、涙の意味は十人十色だったと思いますが、「心」を動かして取り組んだからこそ、流せた涙だったのだと思います。その選手の「心」を見て、私たちも「感動」したのではないのでしょうか。

「感謝」「満足」「感動」、この3つの言葉は、今富小学校がこの3年間大切にしてきた言葉です。選手の皆さんから、改めてこの3つの言葉の大切さを感じることができました。すべての子どもが、保護者の皆様が、教職員が、この3つの言葉を感じることができる学校にしたい。今富小学校に関わるすべての人と一緒に、目指していきたいと思えます。

3月の主な予定

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 3 / 3 (火) 全校朝礼(校長先生の話) | 12 (木) 卒業式 11:20 下校 |
| 6年生を送る会 | 19 (木) 給食最終日 |
| PTA 委員全員協議会 | 16 (月) 地区別児童会 |
| 4 (水) ボランティアさんありがとうの会 | 20 (金) 春分の日 |
| 5 (木) 委員会 | 23 (月) 11:20 下校 |
| 10 (火) 全校朝礼(委員会発表) 卒業式予行 | 24 (火) 修了式 11:20 下校 |
| 11 (水) 卒業式準備 | 25 (水) ~学年末休業 |
| 1~4・6年 13:30 5年 15:30 下校 | 26 (木) 離任式(予定) |



今富小学校の3学期は、全校でなわとびに取り組んでいます。今年は、インフルエンザ感染者が多く、業間の時間を使った持久跳びの取り組みは大半が中止になりました。その中で、休み時間を使ってなわとびに取り組む、本番でも結果につなげている人が多く見られました。また、応援を頑張る上級生の姿を見て、それを見てまねる下級生の姿がありました。なわとびを通して、学年をこえた「縦割り」で交流し、お互いに刺激しあうことにより、学校の雰囲気の高まりを感じました。最後になりましたが、たくさんの保護者に来ていただき、児童の励みになりました。応援ありがとうございました。



教員よりひとこと

濱岸 周子

なわとび大会

りくりゅうペアが金メダルを獲得した日、今富小学校ではなわとび大会が行われました。

大会という名の場には、思いがけない魔物がいるものです。子どもたちも緊張の中で、それぞれの挑戦をしました。いつもは、跳んでいるのに本番でひっかかって悔し涙をする姿。いつも以上の力を発揮する姿。努力してきた時間がそこにつまっていた。悔し涙を流せるのは、本気で向き合った証ではないでしょうか。ひっかかって跳び続ける仲間を応援する姿。仲間を思う気持ちが感じられました。高学年が低学年に「すごいやん!」「リハーサルよりも跳べてるで!」と声をかけている姿も印象的でした。そこには、結果よりも過程を認める優しさがありました。結果だけでなく、挑戦する姿や仲間を思う気持ちが何より輝いたなわとび大会だったのではないのでしょうか。

冬季五輪の選手のように、緊張の中で自分を信じて挑む経験になったと思います。成功も失敗も力になる経験を温かい声かけとともに重ねていけるといいなと感じました。

「今富っ子」に関するご感想、ご意見はこちらまで

<https://forms.gle/DZXZ7k5iS82f6SQe7>

